



SSKU

脳損傷・高次脳機能障害

サークルエコー

Vol. 44 (2011年6月)



こいのほりと満開のほたん桜 (5月11日、岩手県大槌町の避難所脇から) 関連 p.6

サークルエコーは

事故や病気によって脳に損傷を受けると、新しいことが覚えにくくなったり、意欲が低下したり、感情のコントロールが難しくなるなどのため、社会生活の様々な場面で問題が生じることがあります。

このような後遺症を高次脳機能障害といいます。

目に見えにくい障害のため、社会の理解を得にくいこと、したがって現行の福祉制度を利用することが難しい点が大きな問題となっています。

サークルエコーは、高次脳機能障害をとりまく問題の中で、特に、日常生活にも援助が必要な人たちの問題に取り組んでいます。

ホームページ <http://www.circle-echo.com/>

(会報はカラーで見られます)

目次

- ・特集 東日本大震災への思い.....2
- ・遠野から被災地へ.....6
- ・横浜あゆみ荘でプレ合宿.....7
- ・中国リハビリテーション研究センターでの見学..8
- ・メーリングリスト.....10
- ・活動報告.....11

サークルエコーのキャッチコピーが新しくなりました。

脳損傷・高次脳機能障害 サークルエコー
(旧 高次脳機能障害を考える サークルエコー)

特集 東日本大震災への思い

この度の東日本大震災で被災された方々に対し心よりお見舞い、お悔やみ申し上げます。
地震と津波と火災に原発事故が重なり、その後の被害状況をニュースで見聞きする度に、どの様な言葉を掛ければよいのか分かりません。ただただ一刻も早く普通の生活に戻れることを願うばかりです。
私達の会のメンバーには直接震災の影響を受けたものではありませんでしたが災害弱者でもある障害者を抱える家族には様々な思いが錯綜したのではないかと思います。以下、会員やエコーに関わりのある方々からメール等で寄せられた感想等をまとめました。(担当： 今仲、田辺、高橋)

●私にとっての大震災

横浜市 今仲 芳昭

3月11日は、ヒロヤスは、作業所にて就業中でした。「急に大きく揺れ、みんな机の下に潜ったヨ・・・所長にそういわれて」。妻が当事者の息子から直接聞き出した答えである。息子は43歳：クモ膜下出血で通所歴6年、忘れっぽいのと、自分から話しかけられない・・・の、2点に難がありますが、相手の言葉は分かるので、日常的に不便は感じて居ません。綱島の作業所まで、バスで20分、単独通所なので、家族としては助かっています。そのような息子を持つ私の妻は、腎臓不良による人工透析を9年、その間、長期入退院を繰り返すこと5度、透析は当初3時間(3年)4時間(3年)5時間(3年)と、年々長めになっています。震災後は電力不足で3時間になってしまいましたが、1週間には、もどに戻りほっとしています。妻は大の「地震嫌い」です。今の家を、地震に強い！で知られる某メーカーにしたのはそのためです。地震は、私が帰宅する5分前でした。妻の驚きようは半端でなく、寝間着のまま、外に飛び出そうとしているところでした。やれ、助かったァ～！の瞬間でした。

私は、岩手県下閉伊郡(シモヘイグン)出身、実家から被災地の大槌町まで、車で1時間のところ。この界隈に3名の中学校時代の同級生が居り、この6月18日、1泊2日で同級会を開催の予定でした(動員22名)。なんと会場は、海に面した「浪板観光ホテル」、豪華なホテルも無惨な姿を残しました。現地在住の3名は家が全壊、不幸がでた家族もあります。同級会の、副幹事で張り切っていたのに無念な出来事でした。6月現地へ赴く予定です。

●娘は私が守るから

沼津市 秋永明子

沼津もずいぶん揺れて淑子と怖くて慌てましたが 柵から物が落ちたくらいですみました。でも淑子がいたので「お母さんがいるから大丈夫だよ」と自分自身にいきかかせて、でも、すごく怖くて地震は嫌です。ご心配かけました。

●影響は無くとも

瀬戸市 豊田幸子

私たちの住む愛知県瀬戸市では、東日本大震災の本震の揺れをわずかに感じた程度でしたが、その直後から震災の様子が昼夜を問わずテレビから流れ、こころ痛む思いで見えておりました。しかし、その間に娘の様子が段々おかしくなり「テレビを消して！同じことばかり言って、私おかしくなる！」と怒り出し、テレビを点けさせないこともありました。恐怖を表現した言葉だったと思います。2ヶ月経った今も震災のニュースを怖がってみません。このような反応をする娘が、現実に震災に遭い避難所生活を余儀なくされた場合どうなるのか？ どうしたらよいのか？ こちらは、東南海地震が来ると言われて久しいので、連鎖で起きるのでは？と不安です。報道による高齢者や障害者の置かれた現状を見るにつけ考えてしまいます。

娘とは災害に遭った場合の避難所の確認や、家族とはぐれた場合の対応などを話し合いましたが、個人のできることは限られています。自分の身を守ることの出来ない弱者への対応は、地域を巻き込んで皆で考えて行かなければと思いました。

●施設力に助けられました

狛江市 田辺和子

3月11日は、我が家から車で30分の稲城市の入所施設(パサージュいなぎ)にいる息子のところへ、週末の外泊の迎えに出ようとしていたとき、大地震がきました。

自宅ガレージに置いている車が前後に滑っていました。頭上の電線がブラブラと揺れ、どこにいればよいのかと思いました。

外泊をキャンセルしようにも、電話が繋がらない。夜、やっと施設からの電話がつながり、「明日に延期させてください」と言いました。その時はその後の混乱を予想していなかったんですね。でも、その後、余震や停電、ガス欠などがつづきました。対応が難しいことが想像されたので、翌日、つづく10日間、外泊をキャンセルしました。その間に息子は熱を出し体調を崩したこともあったそうです。自宅に2人でいたら気が気ではなかったでしょう。入所したとはいえ、普段は、月に10日も家に帰るような生活、つまり、2つの拠点という生活を実現できていたのですが、今回ばかりは、施設力にすっかり助けられました。(このことは、地域では、災害時に要援護者をどう守るかを突きつけていることでもあります。それについては別途)

ところで、その入所施設は、利用者の安全な日常を確保するとともに、被災地への支援として、「短期入所の受け入れ」と「現地への支援者の派遣」を実施しているとのことでした。

●尚樹を連れて、避難は難しい

津市 東海かえこ

ご無沙汰しています。去年暮れから、パソコンの調子が悪く、とうとう破損してしまっていて中々、ご連絡もできずにいました。本当に、日本はどうなってしまうのでしょうかね。津波があった日は伊勢の島で、車椅子で生活している人も島の高台に避難したそうです。でも、避難所に行くには階段で……。女所帯で年の行ったお母さんと暮らしている彼女は、隣の方におんぶしていただいて避難したそうです。

避難所でも、車椅子は彼女だけで、小さくなっていましたそうです。幸いにも、うちの方は何ともなかったのですが、いつも思うことがあります。尚樹を連れて、避難は難しいことなので、災害が来たらどうしようかと……。被災地でも、障害を持った方はどうなさっているのでしょうか……。心が痛みます。今回は気にしていただいてありがとうございます。久しぶりのメールで嬉しかったです。今度投稿させていただくときは、何か楽しい事で投稿させていただきたいと思っています。

●自然の脅威には無力

大田区 柴崎祐美

ご心配おかけしました。仙台の実家は、来週あたりから大工さんが来てくれる予定です。お風呂場や壁の修理が終わるとやっと落ち着くかなと思います。「地震保険から出るお金は少ないなー」と言いつつも、仕方ないことです。GWに帰省したとき、父の実家の方をみしてきました。3月に帰った時は住民以外は通行止めでしたが、今は、警察に止められますが免許証を見せて、「この先に実家があると」と通してもらえるようになりました。田んぼには、まだ車や大木 etc がまだゴロゴロと転がっています。父の実家は1Fが水没しました。

叔母(70歳代)は「着物をしまっていた、嫁入りのタンスを涙ながらに捨てた」と言っていました。今年は田んぼも畑もできません。「無職になってしまったー」「この歳まで元気に生きてきてこんな目にあいたくなかった」と。家だけじゃなく、生きがいや思い出も突然奪われてしまいました。自然の脅威の前に本当に無力ですね。父の実家もボランティアさんに片づけを手伝っていただきました。家族だけではとても無理だったと思います。感謝しています。全国から集まるパワーはすごいと思いました。

●ネズミも避難

武蔵野市 山崎 光弘

今回の震災では多くの尊い命が失われ、今も避難所での生活を送っている被災者の方々が数多くいらっしゃいます。被災地では、平等や公平性という理由から、障害を負っている方へのサポートが十分に行き届いていないと言う話を伺う機会がありました。また、被災地でなくても計画停電や買い占め騒動で間接的な被害にあわれた方々もいます。非常時だから…と言われる方もいますが、それではすまない問題が隠れているのではないかと思います。ちなみに、我が家ではねずみが出るようになりました。

震災後、非常用に使っておいた食糧がかわらなくなって、もう一度買いなおすことに…。ねずみが逃げ込んでくるのだから、ある意味安全なのか？と自問自答しながら、奇妙な共同生活が続いています。

●高速道路を通行中に～そばにいれば守れる

武蔵野市 高橋俊夫

その時は、年一度の泊旅行の帰り道、エコーの合宿で通り慣れている中央道の河口湖～大月線を通行していました。一瞬、少しハンドルを取られる感じ。風かな？こんなに吹いていたかな？もしや地震？・・・すると間もなく、いつも掛けているNHKの緊急地震放送が流れました。「震源地は」「震度は」と耳をそば立てながら、スピードも落とし、慎重に慎重にと走り続けた。相当大きな地震、津波が襲っていることが放送されている。スピード標識は50キロの表示に。「次のインターで出ろ」と言う表示も。しかし「通行止め」の表示は出ていない。家は大丈夫か。しかし誰もいない。この先崩れていることは無いのか、等いろいろ想いを巡らしながらの運転です。

「災害弱者」の妻は何事も無いように助手席で寝ている。しかし傍にいたのでいざという時には自分が守ることは出来ると思った。途中、トイレ休憩もしたが皆、落ち着いた様子。1つ前のインターで出ざるを得なかったが、無事に家に着くことができた。家では棚から小さいものがいくつか落ちていたこと、ガスメーターの復帰位で済みました。しかし家の中に居たら相当の揺れで怖気ついていたかもしれない。その後の近隣の方々の話でうかがえます。

その晩はニュースに釘付け。下の娘は新宿駅から会社の同僚と歩いて帰ってきたと言う。20キロ近くあるはず。この旅行は宿の都合で1日早めてのことだった。予定通りであったら帰りが大変だったと思う。

●仲間と雑魚寝で

千葉市 鈴木 勉

その日は神保町で趣味の太極拳をしていました。見るからに古い建物の中にいたので、揺れている間はとっても不安でしたが、倒れなかったです。後で「あの建物は関東大震災でも倒れなかったのだから大丈夫」などと言われたのですが、そんなに古い建物と知って「大丈夫どころか」ぞっとしました。

しばらく公園にいたのですが、家が千葉なので帰ることができず、結局太極拳仲間の家に10人くらいでザコネして泊めてもらいました。翌朝 電車が動き始めたというニュースを見て、家に向かいましたが、家に着くまでに随分時間がかかりました。

●明けない夜はないからと

横浜市 西田宏美

『金曜日、息子が作業所から帰って来る時に、あの大地震が起きた。横浜も震度5強だったが、息子はバスに乗っていて家につくなり『バスが、ゆれたぞ～！！』と言いながら帰ってきた。もし、電車の中で地震が起きて電車が止まってしまったとしたら…。また携帯電話が繋がらないとしたら…。と色々な場面を考えると、とても心配になった。その日からは、作業所も、一週間休みになった。今も岩手、宮城、福島、茨城県と、大変な状況になっていますが、テレビから『明けない夜はないから…！』と言う歌が聞こえてきました。

平成23年3月24日

「東北地方太平洋沖地震」被災地で「高次脳機能障害者」に対応される方へ

国立障害者リハビリテーションセンター

高次脳機能障害者には、次のような特徴があり、被災地のような特に慣れない環境では、手足の麻痺など外から見える障害がなくても、常に見守りが必要です。以下に、被災地で支援に携わる方々に、ご理解とご協力をいただきたいことをまとめました。

1. 新しいできごとや場所を忘れやすいので、ひとりで避難所の外へ出ると戻れなくなることがあります。避難所の中でも、トイレや自分の居場所がわからず迷うことがあります。
2. 危険な場所がわからず、地盤のゆるいところや、倒れかけた物の近くに行ってしまうことがあります。
3. 大事な指示を聞き逃したり、理解していなくても「はい、わかりました」と答えたりすることがあります。ふだん接している人に確認してください。
4. けがをしているのに気づかないことがあります。本人の言葉だけでなく、身体状況を一通りよく見てください。
5. 食料や物資の配給を待てずに怒ったり騒いだりすることがあります。家族の代わりに列に並ぶ、別途配給するなどの対応で、家族の負担を軽減することができます。

(参照 <http://www.rehab.go.jp/>)



ギャラリー



カオ作



ヨシ作



ツネヨ作



遠野から被災地へ

東京都狛江市 田辺和子

大震災があつてから息子の受傷当時のことを思い出す日が増えました。(語弊があるかもしれませんが) あれは我が家の震災だったのだろうか。

5月9日～12日、東北の被災地へ行ってきました。被災地から1時間の遠野市を拠点とする「遠野まごころネット」*に登録。10日、朝7時半。遠野市の総合福祉センターの玄関先のミーティングには、全国各地から200人くらいのボランティアが集合していました。このミーティングで、現場の必要人数が募集され、その場で配置が決まります。「女性1名！」の声に手をあげて即決、「青空喫茶」の担当となりました。

すでに決まっていた3人とバンに乗り、遠野を出発。ボタン桜が満開の美しい山里の景色は震災を一瞬遠いものに思わせるほどでしたが、1時間後、峠を下りていくと、突然、釜石の街(だった瓦礫の山)が車窓に現れました。それまでの風景とのあまりの落差。トンネルをくぐった隣の大槌町の中心地も大きなショッピングセンターの下半分は瓦礫で埋まり、見る影もなくなった車などが絡まっていました。テレビで連日放送された光景が、現実のものとなって迫りました。

避難所となっている大槌町小槌の弓道場近くの広場にテーブルと椅子を並べ、喫茶の用意をし、避難所に声をかけにいきました。入り口には、いまなお、尋ね人の紙が貼られ、そのところどころはマジックの線で消されていました。その近くには、パソコンに向かっている役所の人2人、反対側のコーナーには医療関係者が4人、その先には、パンがたくさん、行き場を失ったように並んでいました。シンとした館内では、仕切りの段ボールの蔭で横になっている方もいらして、2ヶ月にもなる避難所暮らしが胸に迫りました。狭いご自分のスペースで手仕事のようなことをしている方、所在なげに座っている方、声をひそめて語りあっている方々などに、青空喫茶の開店を告げてまわりながら、心のざわめきがおさまりませんでした。

喫茶の準備が整うと、避難所だけでなく、被災した自宅を片づけながら住んでいる近くの人たちも息抜きにきてくれました。震災から2か月になります、顔をあわせるなり、「無事だったのね！」と声をあげて抱き合う姿が幾度も見られました。

ひとりで座っている被災者の方に、「大変でしたね」と声をかけると、ポツポツと、やがてはこちらが席をたつこともできなくなるほど思いを吐き出されるようになりました。

80歳くらいの女性、30代で夫を亡くし2人の子を育て、その後はひとり暮らし。リフォームしたばかりの家は流され、息子一家のところに避難しているとのこと。娘家族も被災し、息子の家に3家族が同居。このままではいられないけど「もう家は建てられない」と肩を落とされていました。50代の女性は、津波から逃れて山に上って震えていたその夜、周辺の木がパチパチと音をたてて燃えだしたこと(車の出火やプロパンガスの火が移ったため)、「地震」「津波」「火」、ひとつ逃れたら次の脅威がおそってきた恐怖を話されました。家も車も流されたこの女性は、支援物資の届かない震災当日の夜、被災しなかった近隣の人たちがオニギリを差し入れてくれたことや、近くの道路が開通した日、介護施設の母親のところを訪ねようと、来ないバスを待って道路にたたずんでいたら、反対方向に向かっていた車がUターンしてもどり、施設へ送ってくれたということなどを話してくださいました。そして「遠くからボランティアに来てお茶を出し、話を聞いてくれる、この災害の中、どんなに人の情けに出会ったことか」と涙を流されました。

この「青空喫茶」の運営にあたっておられる臼澤さん(男性60代?)はご自身も津波で被災された方。頭上まで水がきて呼吸さえ難しい中、素手で屋根を破って脱出されたそうです。「柳田国男関連の資料を収集して出版間際だったのが流されてしまった」と肩を落とされましたが、現在は、この青空喫茶のほか、被災した子供たちのために全国から本を集めて送る「絵本文庫」も主宰されています。

短い東北行でした。でも、これからも影響を与え続ける経験でした。また、訪ねると思います。

* 被災地支援ネットワーク『遠野まごころネット』は、被災地した沿岸地域への移動時間が1時間という遠野市の地の利を活かし、全国各地からボランティアを受け付けている。
<http://tonomagokoro.net/>

横浜でプレ合宿

サークルエコーは、発足以来、毎年合宿を行ってきました。発足後の逗子につづく7年間は山梨で行ってききましたが、今年の役員会で、横浜市営の「横浜あゆみ荘」の提案があり、5月7日から1泊で、幹事会を兼ねたプレ合宿を行いました。横浜あゆみ荘に午後4時にチェックインのあと、館内を見学しました。プール、会議室、研修室、体育館、卓球台、子供用遊具、DVDスクリーン、介護用風呂（リフト付もあり）のほか、カラオケの設備もあり、ホテル/旅館並みに布団の上げ下ろしのサービスつきです。

館内見学後、豪華な夕食（定食ですが）、食後はカラオケ。思いがけない歌もとびだし大いに盛り上がりました。夜9時から、今年の合宿について、サークルエコーの今後のあり方について、会報/HPについて等、遅くまで話し合いました。（数人は深夜2時ごろまで）翌朝、田川さん夫妻も到着。にぎやかな朝食のあと、近くの公園を散歩、秋の合宿は期待できるねと話しながら解散しました。

10月中旬に予定されている合宿については、次号にてご案内いたします。

ところで、たまたま同じ日、NPO法人全国脳卒中者友の会連合会の運営会議が同じところで開かれていました。翌朝、我々の朝食のテーブル横を通りかかった石川敏一常務理事から活動についてお話を伺いました。後日、石川氏よりメールをいただきましたので、ご紹介いたします。

(今仲)

「横浜あゆみ荘」では、お声掛けいただきありがとうございました。当連合会は、西は熊本県と東は横浜市の二つの事務局があります。当日は事務局の連絡会でした。理事会の準備、10月31日の全国脳卒中者の集い長崎大会に向けての準備、また、マスコミ取材や全国失語症友の会連合会との意見交換などについて話し合いました。翌日の朝食時には、今、当事者の声がいかに大事なものであるかを改めて感じているものですから、2月22日に国会内で8党派による脳卒中対策議員連盟発足したことなどお話をさせていただきました。現在、国会は、東日本大震災の対策に集中していますが一定の見通しがついたらまた、即議員立法提出に動いてもらう予定です。サークルエコーの皆様にお伝え下さい。

NPO法人 全国脳卒中者友の会連合会 常務理事 石川敏一



イチ、ニッ、サン、着地！！
上がる人、上がらない人、昔上がった人



翌朝は近くの公園を散歩

中国リハビリテーション研究センターでの見学

鈴木 勉 (言語聴覚士)

2010年の9月4日から11月3日まで北京に滞在し、中国リハビリ研究センターで言語訓練の見学をしてきました。ここでは中国の言語訓練の現状を述べるとともに、興味を覚えた体験などを報告したいと思います。なぜ中国か。主な理由が二つあります。

一つは中国語の失語症の症状、とりわけ読み書きの症状を自分の目で見てきたかったからです。漢字と平仮名、片仮名と3種類の文字を用いる日本語と、漢字だけの中国語の読み書き症状の違い、それに応じた訓練方法の違いを実際に見て、参考になることがあれば日本語の訓練に取り入れたいと思ったのです。

もう一つは、比較的長い日数中国に滞在して、中国の生活の雰囲気を感じてみたいと考えていました。これまで観光などで短期間滞在したことはありますが、もっといろいろ中国を体験してみたいという気持ちがありました。

見学先の中国リハビリテーション研究センターは、ベッド数1100のリハビリテーション病院と研究施設が併設された大きな施設で、中国のリハビリテーションの牽引的存在です。日本の国リハのような存在だと考えればよいと思います。

中国のリハビリテーションの推進には、日本が多くを協力しています。このセンターは、「1988年に開設された中国で初めての近代的総合リハビリテーション拠点」で、JICAの事業として、日本の「無償資金協力」で設立されたとのこと。当時日本から医師や療法士が北京に行き、何ヶ月も滞在して中国のスタッフの教育にあたり、リハビリテーションの基礎を築きました。玄関にはその経緯を記したポスターが貼ってありました。今もリハセンターにJICAのスタッフが常駐しており、その中にリハビリの専門家として、今年も二人のPTさんがいます。二人とも国際医療福祉大学の先生です。

PT、OT、STともにまだ資格制度がなく、職能団体もないため、リハビリ専門職の確かな人数は把握できないようですが、ネット上の2008年のJICAの文書には「2005年末時点で中国障害者連合会傘下の県級以上のリハビリテーションセンターにおける専任管理者、専門技術職員は合計2.5万人、都市と農村の専任・兼任の社区リハビリテーション業務従事者は5万人である」との記載があります。また障害者の数については、「経済発展と交通量の増加により、労働災害、交通事故が急増し、障害者数は8296万人に達している」と書かれています。おそらく脳外傷による高次脳機能障害者も多いのだらうと思います。

リハ職種の養成については、北京にPT、OTを養成する首都医科大学という4年生大学があります。日本の支援で2002年に開設されました。しかしSTの養成校はありません。資格による職種間の垣根がないため、この学校の学生の中で、言語に関心のある学生がSTになることもあるようですが、他のコースから(例えば看護師が研修を受けて)STになる人もいます。日本でもSTの資格が出来る前は、このような状況でした。今後障害者の数が急増することが予測されており、リハビリテーション専門職の養成は急務です。JICAは中国側と協力して、2008年から2013年まで、在職者のレベル向上を目的に、陝西省・重慶市・広西チワン族自治区を対象に「中国中西部地区リハビリテーション人材養成プロジェクト」を行っています。

このリハセンターのST部門には、14人のSTがいますが、その中に日本で研修した経験のある人が3人います。3人はリハセンターSTのリーダーであり、中国全体のSTのリーダーでもあります。また職員の他に、それと同じくらいの数の研修生がいて、スーパーバイザーの指導を受けて、患者さんの訓練をしています。研修生はそれぞれの所属する病院から北京のリハセンターに派遣されています。半年あるいは1年間という長い期間勉強した後地元に戻り、STとして一人立ちします。福建省・河北省・湖南省など、中国各地から研修生がきていました。PTやOTには、STよ



中国リハビリテーション研究センター

りずっと多くのスタッフがいて、訓練室は患者さんでいっぱいでした。リハビリ部門には針治療の療法士もいて、私も試しに針をさしてもらいました。S Tの患者さんは、大部分入院患者で、一人のS Tが小児から成人まで幅広く訓練を行っています。患者さんは北京だけでなく中国各地から集まるそうです。訓練時間は30分で、個人訓練のみ。一人の患者さんに対して、月曜日から金曜日まで毎日訓練を行っていました。私は主に成人の患者さんの訓練を見学しましたが、障害は失語症、運動障害性構音障害、嚥下障害で、高次脳機能障害はS Tでは訓練をしていませんでした。



リハセンターのS T、研修生と

滞在中に北京で開かれたリハビリテーションの学会に参加しましたが、中国の人の発表の中には、高次脳機能障害に関する発表はほとんどありませんでしたから、これからの領域のようです。

私の中国語は「超重度失語症」なので、会話はほとんど聞き取れません。しかし重い失語症の人の訓練は単語中心ですから、わかることもあります。S Tの口を見て復唱したり、患者さんと一緒に小声で文字を音読してみたりしていました。S Tさんとは、日本語のできる人とは日本語で、英語のわかる人とは英語も交えたり、文字を書いたりして意思疎通を図りましたが、どちらも通じない人とは、「笑顔が一番のコミュニケーション」というのが実情でした。そんなやりとりでしたが、S Tさんや研修生とは親しくなり、この間の地震の時には、何人もの人からお見舞いのメールをもらいました。

S Tの一日は、朝7時50分のミーティングで始まります。午前中は8時から11時半まで訓練、午後は1時半から4時半まで訓練です。昼休みが2時間あるので、近くに住んでいる人は自宅へ戻ります。私はリハセンターの職員食堂で昼食をとって、そのあとホテルに戻って一休みした後再びセンターに戻り、見学を続けました。夜は近くの食堂で、珍しい料理をあれこれ頼んで夕食をとりました。何度か行くうちに、食堂のおばちゃんとの簡単な会話は可能になり、気楽に食べられるようになりました。

中国に滞在中に尖閣列島の事件が起きました。センター側から外出にはくれぐれも気を付けるように、また単独での遠出は避けて欲しいという注意がありました。それでも休日は、地下鉄やバスに乗って北京の観光地をあちこち見物して回りましたが、とげとげしい場面に出会うことは無く、何もおきませんでした。ホテルに戻るのが9時、10時ということもありましたが、繁華街や大通りを歩いている分には、治安に不安を感じることもありませんでした。

中国のS Tの領域はまだ療法士も少なくまた本や情報も少ないのですが、リハセンターで会ったS Tや研修生はみな知識の吸収に熱心で活気を感じました。いずれ資格制度・養成制度が整えば、大きく発展するに違いないと思います。日本のS Tも頑張らなければと思いました。

日本大地震、昨晚才看到新闻，很揪心，晚上给铃木老师发了E-MAIL，希望他能安全渡过并能来长沙暂避，很担心、半夜三更还、还梦到 铃木老师了，早上拔了田老师的电话，喜讯：均安全！铃木老师住有东京朋友家，千叶家回不去了，

日本に大震災があったというニュースを昨晚見て気持ちが落ち着かず、今夜鈴木先生にEメールを出した。先生の無事をお祈りし、長沙へ暫く避難するようお勧めした。とても心配だった。夜半、鈴木先生のことを夢にみた。朝、田先生から電話があった。よかった、鈴木先生は無事だった！鈴木先生は東京の友人の家に泊まり、千葉の家に戻らなかったとのこと。

中国のS T 王如蜜さんのブログより抜粋 (訳:鈴木勉)

メーリングリスト

この欄では会員間のメーリングリストやメール、
お便りなどを紹介します

NHK ハートフォーラム・・・まずは避難路の確認から

3月20日、NHK ハートフォーラムが虎の門のニッショーホールで開催されました。エコーも加盟している NPO 法人 東京高次脳機能障害協議会が共催です。大震災後、様々な高次脳関連の催しが中止されている時に、開催が危ぶまれていましたが、800人超の申し込み中500人ほどの来場でした。いざと言う時を考えスタッフ全員で避難路の確認を行ってからの開始でした。(講演中にも余震がありました) 上映とプラス演出効果が満点でした。“さすが、NHKだなァ～”と言わせるものでした。私の感想は若い渡辺さんが、バイクで転倒により脳損傷と診断され、医師から寝たきりになるかも!の言動を覆すように徐々ながらも回復の経過をたどりつつあるのは、地域の医師、ケアマネージャー、etc は勿論、何より家族の誰かが当事者の為の専門家であれば、急がずとも回復が期待されると受け止めました。大橋先生(神奈川リハ)、和田先生(ふらっと)、藤田太寅さん(元NHK)からも感銘を受けました。名解説者の、藤田さんの見事な回復ぶりに、つい、涙して聞いていました。(今仲芳昭)

遼平さんの絵が入選

今年も山梨の会員・村田遼平さんが「水彩連盟展・70回記念」(国立新美術館=港区乃木坂)に入選されました。4月6日今仲さんと高橋2で見学してきました。この会場では11日まででしたが、巡回展が4月26日(火)~5月1日(日)の間、「愛知県美術館ギャラリー」で行われました。画題は「春色の森へ」。村田さんからチケットをいただいています、お出かけになる方はお知らせください。(高橋俊夫、今仲芳昭)

高橋さん、今仲さん、わざわざ新国立美術館まで絵を見に行ってお礼ありがとうございました。年々表現力がついて来ていて、指導して下さる先生に感謝しています。理解力が低下しているからでしょうか、時間がかかるけど前進しているところが、親としては嬉しく感じています。水彩連盟展はレベルが高いのできっと行かれた方々も楽しめたのではないのでしょうか。我が家もせっかく山梨県から出掛けて来ましたので六本木ヒルズまで車椅子に遼平を乗せて行って来ました!

山梨県ではなかなか食べられない美味しいお寿司屋に入って、とても満足しました。いつかは入賞する事を目指して遼平は頑張っています。(村田淑子)

村田遼平・淑子様 春も深まり、木々の緑が美しい季節になりました。遼平さんは元気で絵の制作に励まれていることと存じます。さて、4月26日から始まっている遼平さんの入選絵画展に香がヘルパーさんと名古屋の美術館行って来ました。この頃は、ヘルパーさんと街中へ出かけ、楽しめるようになっています。香の感想=春の感じがする綺麗な絵だった。ヘルパーさんの感想=緑の中に黄色などの色が入って春らしい絵でした。二人とも「春」の雰囲気は感じたようです。

これからも頑張ってください。応援しています!

(豊田 香、幸子)

筋トレで登山に

先日、清里と長野県南牧村との県境にある飯盛山に遼平を連れて登ってきました。標高1,600m位の山を、駐車場(1,450m)から登るのですから大したことはないのですが(上り1時間10分位)、バランスのとれない遼平は半分程度で引き返してきました。それでも筋トレに励んでいるので、随分と歩けるようになりうれしいです。今度はもっと歩きやすい山道を探して登ってみようと思っています。

(村田淑子)



☆☆☆お知らせ☆☆☆

◎ 年金法の改正

4月から「国民年金法等改正」により、今までは障害年金を受ける権利が発生した時点で、配偶者や子がいた場合に一定額が加算されていたが権利が発生した後も結婚や出生によって要件を満たすことになった場合一定額が加算されることになった。詳しくは「ねんきんダイヤル0570-05-1165」

◎ 地域支援ハンドブックの改訂版

東京都は、平成18年に作成した「高次脳機能障害者地域支援ハンドブック」の改訂版を23年3月発行しました。区市町村等の相談窓口等で高次脳機能障害者への適切な支援につなげることをめざしています。ハンドブック作成委員会にはNPO法人東京高次脳機能障害協議会の委員として当会の田辺和子が参加、また、「家族の体験」のひとつに当会会員が執筆しています。ハンドブックは、東京都心身障害者福祉センターのホームページでみることができます。
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shinsho/index.html>

◎ 第5回「高次脳機能障害のグループ訓練」講座

NPO法人 東京高次脳機能障害協議会 (TKK) 主催の支援者養成講座の第5回目が開催されます。

- ・会場 (株)エッサム 貸会議室(神田から徒歩3分)
- ・期日:9月10日(土)10時~16時 ・参加費:2,000円 ・定員:80名
- ・内容:①馬原 誠司氏(広島医療秘書こども専門学校)「前頭葉障害への志向シミュレーション訓練」
②中島 恵子氏(帝京平成大学大学院 臨床心理士) 「前頭葉障害者の家族教室」

サークルエコー行事&会合報告

- 2/22 低酸素脳症資料について打ち合わせ(渡邊修氏)・・・調布(田辺)
- 3/5 えこーたいむ(43号発送作業)・高橋宅(田辺2、西田2、高橋2、田川2、今仲2、井上2、高橋(ま)、大島2)
- 3/7 高次脳機能障害DVD検討作業・・・南青山・TKK細見宅(田辺)
- 3/9 TKK家族相談交流会・・・都身障(高橋)
- 3/9 講座「知的障がいのある方の地域生活支援について(川崎市 住舎泰子氏)」・・・粕江あいとぴあ(田辺)
- 3/20 NHKハートフォーラム「脳損傷からの回復」・・・港区ニッショーホール(福島、高橋、今仲、田辺)
- 3/26 えこーたいむ・・・田辺宅(田辺2、西田2、高橋2、今仲)
- 3/28 合宿下見・・・都筑区横浜あゆみ荘(西田2、今仲2)
- 4/1 合宿申込・・・横浜あゆみ荘(西田3 今仲)
- 4/6 第70回水彩連盟展(遼平さん入選)・・・国立新美術館(高橋2、今仲)
- 4/7 地域リハ取材 土本亜理子氏・・・田辺宅(田辺)
- 4/17 マリン横須賀・・・ゆんるり(田川)
- 4/17 懇談・・・田辺宅(福島、山崎、田辺)
- 4/19 会報編集会議・・・田辺宅(田辺、西田2、高橋2、今仲)
- 4/20 TKK定例会・・・高輪区民センター(高橋)
- 4/23 えこーたいむ(総会)・・・田辺宅(田辺2、西田2、高橋2、今仲、山崎)
- 5/1 鳩笛音楽教室10周年 講演 高橋八代江氏・竹内章郎氏 粕江/泉の森ホール(田辺)
- 5/7-8 合宿地下見・・・横浜あゆみ荘(田辺2、西田2、高橋2、田川2、今仲2、山崎、福島)
- 5/15 マリン横須賀・・・ゆんるり(田川)
- 5/18 報告など「レビー小体型認知症家族を支える会」尾崎純郎氏・・・登戸(田辺)
- 5/20 練馬就労支援ホーム機能移転説明会・・・都庁(田辺)
- 5/25 会報編集会議・・・田辺宅(田辺 西田2 高橋2 今仲)
- 5/28 TKK第4回リハビリ専門家向け講座「高次脳機能障害のグループ訓練」・・・神田(高橋)
- 5/28 稲城市高次脳集い・・・稲城市福祉センター(田辺、西田2、今仲)

《定期総会報告》

4月23日定期総会が開催されました。決算について報告するとともに任期満了により役員の変更がありましたので役員《一部》を紹介いたします。

また会の呼称が変わりましたのでお知らせいたします。

- ・決算報告(右表参照)
- ・役員の変更

代表: 高橋俊夫

副代表: 今仲芳昭、西田宏美、田川三枝子

- ・呼称変更

「脳損傷・高次脳機能障害 サークルエコ」
 となりました。

2011年6月～7月 活動予定

- ・えこーたいむ・・・6/25、7/23、8/27
- ・多摩エコ・・・随時
- ・ナノ《三郷市》・・・随時
- ・フレンズハウス《瀬戸市》・毎週、月、火、土 第1・3金



ご支援ありがとうございました。



2011年3月～5月までに寄付、賛助会費をお寄せくださった方々です。

(順不同・敬称略)

- | | | | | |
|---------|--------|---------|--------------|--------|
| 平野 圭太 | 長瀬 せい子 | 杉本 圭二郎 | 粉川 靖子 | 中田 文枝 |
| 佐藤 佳枝 | 須藤 房枝 | 柴田 玲子 | 吉田 筈子 | 内田 妙子 |
| 七五三 いよ子 | 西田 均 | 丸山 重子 | 石川 孝子 | 谷田部 良子 |
| 綿森 淑子 | 川野 美也子 | 五味田 美恵子 | (有)齊藤プロダクション | |
| 北條 代志江 | 北條 飛帆 | 北條 航 | 青木 円 | 古閑 八枝子 |
| 柳谷 幾代 | 田中 栄子 | 齊藤 紀久男 | 矢田 光江 | |

◎ 入会のご案内

「正会員」

入会金 1,000円
 年会費 3,000円

◎今年度も賛助会費のご協力よろしくお願いたします。

年会費(4月～3月)1口 2,000円

郵便振替 口座記号番号 00180-0-546112 サークルエコ

編集後記

Ayako様、1年余の会報編集担当ありがとうございました。その後を再び私が担当する事になりました。なかなか若々しく軽快な感じと言う訳にはいきませんが読みやすく文字や配列に工夫していきたいと思ひます。
 Takahashi

サークルエコ連絡先

- | | | |
|-------------|----------------------------|-----------------------|
| 田辺 和子 | 〒201-0013 東京都狛江市元和泉2-7-1 | Tel/Fax:03-3430-8937 |
| 谷口眞知子(ナノ) | 〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎2193-1 | Tel/Fax: 048-956-2224 |
| 豊田 幸子(フレンズ) | 〒489-0987 愛知県瀬戸市西山町1-60-20 | Tel/Fax: 0561-82-1498 |

平成22年度決算報告書 サークルエコ
 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

収入の部		単位:円
科目	金額	備考
前期より繰越	198,632	預金190,633 現金7,999
会費	381,000	会費、賛助会費
寄付金	311,000	東京パイロットクラブ様他
雑収入	14,800	記念誌代、本代、DVD代
助成金	120,000	オラクル有志の会
受取利息	58	
合宿参加費	115,000	
合計	1,140,490	
支出の部		
科目	金額	備考
活動費	430,199	他団体会費、書籍、確定協他、合宿参加費(¥160,611杏)
通信費	32,137	会報発送代他
電話料	65,610	相談窓口、ドメイン料
印刷費	51,830	会報印刷、コピー代他
消耗品費	123,334	会報用紙、事務用品
旅費交通費	59,655	会合他(運営会議等)
備品費	174,460	パソコン他
公租公課	1,000	収入印紙代
雑費	7,160	写真代他
合計	945,385	
次期繰越	195,105	預金167,491 現金27,614

上記の通り帳はありません。 監査 村田麗子

発行人 編集人
 東京都狛江市元和泉 二一七一
 高次脳機能障害を考えるサークルエコ
 東京都世田谷区砦 六一二六一二一「定価は会費に含まれる」
 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会 定価 百円